



応援します、生涯学習 - ふえる知識と仲間の輪

令和3年10月1日発

あい風通信

50号

(学びのスタンプ通算 57号)

10月以降の講座紹介…受講の際は感染防止対策にご協力を！

新型コロナウイルス感染拡大に伴う、まん延防止等重点措置や緊急事態宣言発令により、「あい風通信 49号」でお知らせした下記講座が延期や中止、日程変更を余儀なくされました。延期講座については可能な限り年度内実施を目指して調整しております。実施の場合はホームページや広報などでお知らせいたします。

- ◇講座6「三船殉難事件」【延期】
- ◇講座7「北海道の水産と漁業」【延期】
- ◇講座8「発展する石狩湾新港の役割Ⅱ」【中止】
- ◇講座9「石狩を繁栄させた宝船」【中止】
- ◇まちの先生企画講座1「ジャム作り」【中止】

～コロナ感染状況により変更もありえますので、受講申込みの際事務局にご確認ください～

まちの先生企画講座3「家庭菜園の土の健康診断をしてみよう」 【日程変更して実施】

第1回 10月8日(金) 第2回 10月15日(金) 第3回 10月22日(金) 第4回 10月29日(金)

時間と場所 13:30～15:00 石狩市公民館 視聴覚室

◇詳細は「あい風通信 49号」に掲載しておりますのでご覧ください。

講座11「日本遺産と炭・鉄・港めぐり～旧住友赤平炭鉱を訪ねて～」 (受講者提案講座)

見学場所 旧住友赤平炭鉱立坑櫓 (赤平市) ほか

日時 10月7日(木) 8:30～17:30 集合場所 石狩市公民館

◇昨年度、日本遺産について学びましたが、今年度は実際に日本遺産の一つである、炭・鉄・港の旧住友赤平炭鉱を訪ね、当時の国策の姿をしのび、実際に赤平炭鉱立て抗の内部を見学します。

講座12「石狩浜の漂流物から地球が見える」

講師 いしかり砂丘の風資料館学芸員 志賀 健司

第1回「石狩浜の漂着物はどこからやって来るか？」

日時 10月28日(木) 10:30～12:00 場所 石狩市花川北コミュニティセンター

第2回「実際に漂着物を集めて調べてみよう！」バス巡回 小雨決行

日時 11月4日(木) 9:00～12:00 集合場所 8:40 石狩市公民館

◇石狩浜の漂着物は、主に石狩川、対馬暖流、大陸からの季節風によって運ばれてきます。漂着物の由来を辿ると、人々の暮らし方や物資の流通、環境など現在の地球の状態が良く分かります。講座では、漂着物と云う小さな物から地球と云う大きな物が今どんな状態にあるかを推し量って学びます。

講座3「石狩市に残る歴史遺産」 【6月延期講座の実施】

第1回 ユーカラの舞台となった浜益

講師 北海道教育大学札幌校教授 百瀬 響

日時 11月9日(火) 10:30～12:00

第2回 北海道道遺産の濃昼山道と増毛山道

講師 こがね山岳会会長 渡邊 千秋

日時 11月16日(火) 10:30～12:00

◇アイヌ民族は文字を持たず物語を口承によって伝えてきました。この叙事詩をユーカラといい、金田一京介博士は浜益をユーカラ発祥の地とし、黄金山、摺鉢山などがその舞台であるといわれています。

「濃昼山道、増毛山道」は江戸時代末に北方警備のために幕府が場所請負人に道路開削を命じ開通したのですが、国道整備によって使われずクマザサに埋もれていました。この山道の存在を後世に伝えようと「濃昼山道保存会」や「増毛山道の会」「こがね山岳会」の力で復元されました。

浜益に残る2つの歴史的遺産について学びます。

場所(全回)

石狩市花川北
コミュニティセンター



市民カレッジデータ
(9月24日現在)

○登録者～136人
○連携団体～103団体



□ゴ制作者
丸山英里子さん

◇あい風通信のメール配信を始めました

年4回発行のあい風通信は、これまですべて郵送していましたが、メールをお持ちの方にアンケートでメール配信の是非についてお尋ねしたところ、90%の方からメール配信で良いと云う回答を頂きました。この結果を受けて、従来通りの郵送を望まれる方以外はメール配信させて頂くこととし、今月号から実施しています。また、メール配信では、カラーによる鮮明な画像でご覧頂ける利点もあります。なお、メールをお持ちでない方には従来通り郵送させて頂きます。

◇いしかり市民カレッジ諸経費の見直しについて

～年度会費 受講料 講師謝礼 バス使用講座など～ 検討中

いしかり市民カレッジは平成21年4月の開校にあたり、出来るだけ多くみなさまに入学して頂きたい、講座を繰り返し受講して頂きたいと考え、年度会費や受講料を他市などの例より低く設定致しました。受講料などを低く設定するに伴い講師謝礼もかなり低い設定となりましたが、これまでお願いした講師の方々には、市民カレッジの活動の趣旨にご賛同頂き特に異論はありませんでした。

しかし、市民カレッジも13年目を迎え、今後も市民カレッジが安定的に長く継続しみなさまに喜ばれる質の高い講座を維持していくためには、講師謝礼の見直しも視野に入れながらさらに広い分野の講師を求める必要があると云う考えも出てきました。

また、バスを使用した講座では、これまで保険料や下見の際の諸費用などは市民カレッジで負担していましたが、このような形がいつまで維持できるのかと云う事も疑問となってきました。さらに昨年来の新型コロナウイルス感染症拡大下では、施設の閉館に伴う講座の中止や受講者数の制限などがあって、市の予算措置はなく受講料が主な収入源である市民カレッジにとって運営が非常に不安定となり、運営体制の強化も必要になってきました。

このような状況下で運営体制を強化すべくまずは諸経費の見直しから始めていますが、その中では、みなさまに受講料などこれまでよりいくらかのご負担増をお願いする事も含めて検討を進めています。

みなさまのご理解、ご協力を頂きながら、市民の生涯学習への意欲に応え続ける事、それが「いしかり市民カレッジ」がなすべきことではないかと考えております。

あい風通信1月号(51号)で正式に新たな運営経費体系をお示しし令和4年4月より実施できればと考えておりますが、市民カレッジの現況をご考慮頂き、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年度へ向けた講座企画状況

主催講座・・・受講者のアンケートや提案をもとに魅力あるものに！

新型コロナの感染拡大が収まらず昨年に続き本年度の講座も相次いで中止や延期を余儀なくされています。こうした状況下ではありますが企画・事業グループにおいては来年度の主催講座の計画づくりに向けた取組みを始めました。

運営委員スタッフからの提案のほか毎回の講座終了後に受講者の皆様から頂いたアンケートや公募に応じて頂いたご提案をもとに、より魅力のある講座を皆様に提供できるよう、数次の会議を経て年内には概要を取りまとめる予定としています。ご期待下さい。

まちの先生企画講座・・・応募講師説明会、10月12日(火)に変更実施

9月14日(火)に予定していました令和4年度応募講師に対する「まちの先生説明会」は、緊急事態宣言の延長により10月12日(火)に延期いたしました。

これまで応募されたまちの先生は、「生振の歴史を語る」「メノウを知る」「対人関係の在り方」「引きこもりを考える」などをテーマとする4名。さらに、今年度実施できなかった「ジャム作り」「吹き矢」を入れると6講座になります。10月12日の説明会で、応募された講師とお話をした上で検討し、次回51号(1月1日発行)で令和4年度実施講座を発表させて頂く予定です。

チョコっと
いしかり学
《17》

石狩遺産について(第5回)

荘内藩陣屋で目指したこと

石狩遺産プロジェクトM会長 安田 秀司

「石狩遺産」は「石狩市内にある未来に伝えるべき価値」を詳らかにするという目的があります。ところが認定スタートをして3年を経た時点では浜益区の遺産がなかったため、4年目では浜益区を含む石狩遺産の認定を目指しました。結果として、その年に認定された3件すべてに浜益区の構成資産が含まれました。

中でも「荘内藩陣屋跡と関連遺産群」は、もともと国指定の史跡でもあり、絶対に必要なものでした。そこで地元で研究および保存活動をしている「荘内藩陣屋研究会」に早くから打診し、2019年度の認定を目指しました。ただし、「石狩遺産」は複数の構成資産

を含めたストーリーを重視します。東北6藩が蝦夷地警護を幕府から命令される中、北は天塩から南は積丹半島を超えて歌棄（蘭越）までという広大なエリアを幕府から託された荘内藩が、どんな気概をもって浜益に陣屋を構えたのか。また、道内に6つ残る国指定の陣屋史跡の中での荘内藩陣屋の違いなどを明らかにすべく、新たな現地踏査などをしつつ、ストーリーと構成資産は練り上げられていきました。

国指定の史跡は、歴史的遺構の保存に重点が置かれ、地域を限定して指定されます（約16万7800平方メートル）。それに対し石狩遺産では荘内藩の陣屋建設に加え、周辺に村を作り、いくつもの神社仏閣を建て、漁業のあり方までも変えたという事実に加え、継承された伝統文化まで含んだため、広範なエリアと重層的な内容となりました。

陣屋研究会と石狩市の努力で陣屋跡地の整備も徐々に進み、先月は老朽化で倒壊が懸念されていた大手門が復元新築され、落成式が執り行われました。石狩市民の誇りとして「荘内藩陣屋跡」が多くの市民に認識されることを願ってやみません。



石狩の不思議 ～ 花畔神社の石碑



私は花川北在住で地元の神社は花畔神社です。バナナグロと呼び、鳥居が3つもあり、併せて狛犬4対、灯籠が3対ある賑やかさ。左手には石碑がずら一と並んで建っています。右手には明治の開拓時代から祀られた地元の神社や祭神塔が合祀されています。大小30を超える石碑が神社境内にこれほど多くあるところを知りません。

明治4年「花畔村」と命名され、岩手県人の入植から始まる石狩内陸部の歴史が、この境内にはずっしり詰まっているのです。

低湿地や砂地の悪条件を艱難辛苦の末、有数の穀倉地帯へと発展させましたが、石狩湾新港地域開発により大きな変化を遂げた石狩の変遷を、花畔の人達は「石碑」に託し後世に伝えるために残していたのでした。

《森 幸二》

受講者の声

講座終了時に受講者の皆さんからいただいた感想・ご意見を要約して紹介しています。

講座 4「石狩歴史散歩」～花畔地区の碑と歴史（1回目のみ実施）

「すばらしい資料と的確でわかりやすい解説さすが！！ありがとうございました。勉強になりました。石狩（本日は花畔、新港、南線地区）の歴史が非常にコンパクトに身近に感じられました。心にとどめておきます。感謝！！」「しばらくぶりの課外学習とても良かったです。次回を楽しみにしています。貴重な資料ありがとうございました」



まちの先生企画講座 2「ダッチオーブンで作る野外料理」

◇第1回「ユーチューブなどで何でもわかる今ですが、実際に体験できるところが楽しかったです」

第2回「石焼きいもの初体験。新知識を得て実践意欲がわいてきました」

第3回「大変参考になりました。ありがとうございます。燻製玉子、焼き芋は好評!! ジイジの株も上昇中↑」



タウン情報

石狩市における

新型コロナワクチン接種状況

石狩市では、9月17日現在ワクチン接種対象となる12歳以上の対象者53,264人にクーポン券が発送され、そのうち1回目接種済の方が32,939人(61.8%)、2回目接種済の方は26,371人(49.5%)となっております。また、65歳以上の対象者20,445人のうち、1回目接種済の方が17,946人(87.8%)、2回目接種済の方は17,731人(86.7%)と接種率は85%を超えており、希望される65歳以上の方の接種は、ほぼ完了したと考えられます。



さらに、9月16日からは仕事や学校などで平日中に接種を受けにくい方のために平日の夜間と休日の集団接種を開始。また、9月22日からは、若い親世代が接種しやすいよう、乳幼児の一時預かり事業も開始しました。

なお、ワクチン接種クーポン券が届いている方で、まだ申し込みをされていない方は、引き続き受け付けております。

編集後記

またしても講座の中止・延期を余儀なくされ、急きょ編集計画の見直し。しかも編集会議が出来ずメールのみによるリモートでの対応となりました。一日も早くいつもの日常が戻ることを切に願っています。

あい風通信はホームページとともにカレッジ生との大切な情報共有媒体です。コロナ禍、スタッフの一員として微力ながらより良い誌面づくりにも少しでも貢献できればと思っています。

本号からメール発信希望者の皆様にはカラーでのお届けです。ご感想はいかがでしょうか？ (E N)

